

研究所だより

第491号
2025年11月14日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“秋の夕日に照る山もみじ

濃いも薄いも数ある中に
松をいろどる楓や鳶は
山のふもとの裾模様”

『紅葉(もみじ)』 1911年(明治44年) 童謡・唱歌



～ 晩秋～

暦の上では「立冬」、「小雪」と季節は冬に移り変わっていきます。「立冬」とは、冬が始まる頃。木枯らしが吹き、木々の葉が落ち、山では初冠雪の便りが届く頃です。「小雪」とは、雪が降り始める頃。まだ、積もるほど降らないことから、小雪といわれたようです。また、野山では木々がほんのり色づき始め、色鮮やかな紅葉が見頃となってきます。紅葉狩りを愉しむのも一つの手ですね。

これから冷え込みが厳しくなるとインフルエンザの流行が心配になります。12日には「高知県内がインフルエンザの流行期に入った」と発表がありました。今後感染拡大が予測されますので、基本的な感染防止対策(マスク、手洗い、うがい、換気、人混み回避)など健康管理に留意しながら過ごしましょう。

「指導と評価」2025.11月号より（抜粋）

通常学級の特別支援教育
めざしたい学級像

一目立つトラブルさえなければそれでよいのかー

神奈川県立保健福祉大学教授
深沢 和彦

1. インクルーシブ教育の理念

インクルーシブ(inclusive)とは、「包み込むような/包摶的な」という意味で、その名詞形がインクルージョン(inclusion)である。これは、それぞれがもつ特徴によって異なる個性をもつ人が、互いに尊重しながら生活していくことができる「共生社会」をめざす理念を指している。特に、教育の文脈では、障害や国籍、人種、性別を超えて、すべての子どもたちが同じ環境で共に学ぶ仕組みのことを指して「インクルーシブ教育」という。

インクルーシブ教育は、ハンディキャップをもつ一部の子どもたちのためにあるのではなく、共生社会の形成者となるすべての子どもたちのための教育である。

2. インクルーシブ教育が「うまくいっている」といわれる学級の二つのタイプ

深沢(2021)は、校内支援対象としてリストアップされている対象児が複数名在籍する小学校通常学級において、インクルーシブ教育が「うまくいっている」といわれるいくつかの学級の教室観察を行い、臨床像の違いから二つのタイプがあることを明らかにした。

一つは、対象児が周囲児と相互交流しながら生き生きと活動している学級であり、もう一つは、一見すると良好な学級であるが、対象児が学級に位置づいておらず、周囲児と対象児の対等ではない関係性が観察された学級である。Q-U(河村、1998)による調査も実施したところ、学級満足度尺度をもとにした学級分布図から、二つのタイプの学級の違いに関する顕著な特徴を見いだした。

対象児が周囲児とともに生き生きと活動している学級は、学級の児童全員が満足群付近に凝集しており、対象児を含めた全員の満足感が高かった(図1)。本稿ではこのタイプの学級を「インクルーシブ型学級」とする。

一方、対象児が学級に位置づいていない学級は、対象児があたかも離島のように集団から離れて位置していた(図2)。そのため、本稿ではこれを「アイランド型学級」とする。

アイランド型学級の対象児の回答値を詳しく調べてみると、「独りぼっちでいることが多い」「グループをつくるとき残ってしまう」という孤立の質問項目の得点が高いことがわかった。つまり、アイランド型学級では、対等なかかわりの中での相互作用が少ないことが推測され、そのため、子ども同士に大きなトラブルは発生しなかったと考えられるのである。

学級内に目立つトラブルが生じておらず、一、二名の児童を除いてほかの児童が適応的であった場合、これまで学校現場においては、すべて一律に良好な学級状態であると見なされてきた。アイランド型学級は、インクルーシブ型と比較すれば、対象児の適応において課題はあるが、決して悪い学級状態ではない。本調査においても、アイランド型学級より不安定な状態にある学級は、三倍以上多く出現している。しかし、インクルーシブ教育のさらなる進展を考えるとき、アイランド型学級の存在は問題視されなければならない。

3. ほんとうに求められる学級像とは

すべての教師がインクルーシブ教育をめざしながら、このような二つのタイプの学級が出現するのはなぜだろうか。

従来の学級集団づくりでは、最低一年間、同学年の共同体で学習と生活を営むことを通して、共通の行動様式・価値観を伝達し、集団での経験を通して内面的と行動化を図ることが重視されてきた。こうした集団づくりでは、集団全体の成果や効率が優先され、教師は子どもたちに個性を抑えて周囲に同化することを求めがちである。それゆえに、全体の流れにうまく乗れない対象児に対して、やむをえず特別扱いしたり、放置したりすることがあったのではないか。つまり、集団が優先された学級経営のなかでは、教師も周囲児もそれが排除だと気づかない無意図的な排除が生じ、無自覚的にアイランド型学級が生み出されていると考えられるのである。

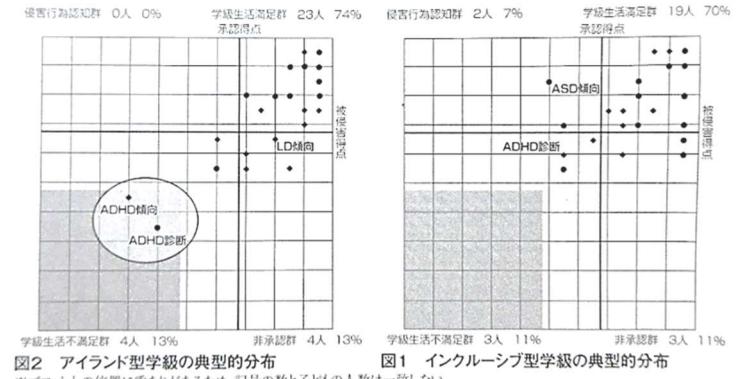
しかし、全体も個も大切にするインクルーシブ教育においては、対象児と周囲児の両方の満足感が高いインクルーシブ型の学級を構築していくことが求められる。その学級での相互作用を通して、すべての子どもに共生社会の形成者としての資質・能力を身につけさせたいのである。

4. 教師こそが「変化の主体」

障害のある子どもに対する教育が、分離別学を前提とした特殊教育からインクルーシブ教育へと変化した現在、それに伴って教師にも変化が求められる。ところが、制度が変わったからといって教師の考え方や指導のあり方がいいせいに変化するわけではない。

インクルーシブ教育が「うまくいっている」といわれる学級において、アイランド型の出現率がインクルーシブ型の二倍であることは、学級担任教師の考え方や指導が大きく影響しており、インクルーシブ教育に対する教師の考え方や指導に、ばらつきがあることを示していると考えられる。

インクルーシブ教育に向けた「変化の主体」は教師であり(Pantic&Florian,2015)、インクルーシブ教育で最も重要な要素は教師である(Moen,2008)といわれる。まず教師の意識こそが、インクルージョンの理念に沿う形で変化しなければならない。



<第75次土佐清水市教育研究集会・半日教研>

11月 5日(水)に半日教研が開催されました。それぞれの部会で公開授業・研究協議や講師を招聘しての研修、実践交流等ができたものと思われます。

各部会の研修(公開授業・研究協議等)の様子を紹介します。

(1) [探究的な学び部会]

・公開授業: 清水小4-1 国語 「ごんぎつね」

授業者 川村 碧人先生

・講話 「『問い合わせる』ための学習指導の在り方」

講師 幾田 伸司教授(鳴門教育大学)



(2) [ふるさと教育部会]

・ジオ学習

講師 土井 恵治さん(ジオパーク推進協議会)

【講話と竜串海岸等現地学習】

・実践発表交流(清水小、三崎小)、情報交換等



(3) [なかまづくり部会]

・各校の実践交流と質疑応答

・情報交換



(4) [教育DX部会]

・10/15(水)研究授業についての協議

清水中1-2 英語 New Horizon English Course
Unit 5 My brother in Hawaii

授業者 志村 留美先生

「生成AIを活用しながら、表現力を高める授業」

・実践交流、情報交換等



(5) [養護部会]

・保健調査票、結核問診票の見直し

・肥満指導について

・情報交換



(6) [事務部会]

・学校事務冊子の研究発表

・防災に関する事務研究等



=研究協力校の取組(防災教育)=

10月27日(月)三崎小学校で慶應義塾大学の大木聖子准教授をお招きし、全校児童、保護者、関係機関のみなさんが参加して防災講演会が開催されました。

今回は、防災学習の中でも風水害にポイントを置いたものでした。大木先生が、「10月のある日、けんくんは、おばあちゃんと2人きりで自宅に居ました。他の家族はみんな出かけています。昼過ぎから雨が降り始めました。自宅のけんくんとおばあちゃんが外の様子を伺っています」。16時、テレビに『警戒レベル3』と流れます。自宅に居るけんくんになりきり『避難するかしないか』を判断し、意思表示をしてください」と問いかけました。

意思表示:【避難する】「レベル3からもっと上がると逃げられなくなる」など

【避難しない】「レベル3だから大丈夫だと思った」など

その後、大木先生は、気象や外の状況等の変化を2時間ごとに提示していきました。18時、20時と時間の経過とともに外の状況等も変化していきます。この時点でも「避難の有無について」問いかけました。

意思表示:【避難する】「雨の状況を見て避難した」、「避難している人がいたから」など

【避難しない】「危険と思い救助を待つ方がいいと思った」、「レベル3のままだから」など

22時に「警戒レベル4」が発令されました。同じくけんくんになりきり『避難するかしないか』を問いかけました。

意思表示:【避難する】「レベル4になり、家に泥水が入ってきたら逃げられなくなる」など

【避難しない】「外も暗くなり危険なので家にいた方が安全だから」

「おばあちゃんがいるから危険なので逃げられない」など

子どもたちは、それぞれの状況を見て判断しました。そして、その理由もしっかり発表することができました。

まとめとして、「レベル3の状況で避難するかを判断する。ハザードマップを確認してください」と投げかけて終わりました。

【警戒レベル3】:避難準備 高齢者等避難開始

【警戒レベル4】:避難指示 地域住民全員が危険な場所から避難する

